

FMステレオ FM-AMレシーバー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、

火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



STR-LSA1

この取扱説明書の使いかた

- 本機の機能を十分にお使いいただくために、お使いになる前に「接続する」を必ずお読みください。
- この取扱説明書では、本体での操作のしかたを説明しています。リモコンでは、本体と同じ表示のボタンを使って、同様に操作できます。本体とリモコンのボタン表示が違う場合は、リモコンでの操作を()で説明しています。
例) VOLUMEつまみを回す(リモコンではVOL +/-ボタンを押す)。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。
 リモコンで操作します。
 知っていると便利な情報です。

目次

接続する	4
箱から出したら	4
アンテナを接続する	5
オーディオ機器を接続する	6
スピーカーを接続する	7
基本操作	8
本機の電源を入れる前に	8
使用したい機器(プログラムソース)を選ぶ	8
各部の名称	10
本体前面	10
リモコン	12
音を調節する	14
サウンドパラメーターを設定する	15
FM／AM放送を聞く	17
放送局を受信する(手動受信)	18
放送局を受信する(自動受信)	19
放送局を登録する	19
登録した放送局を選局する	20
その他の操作	21
登録した放送局やプログラムソースに名前を付ける	22
録音する	23
表示の明るさを調節する	23
スリープタイマーを使う	24
セットアップメニューを使ったその他の設定	24
i.LINKについて	26
その他	28
使用上のご注意	28
故障かな?と思ったら	29
保証書とアフターサービス	30
主な仕様	31
メッセージ表示一覧	裏表紙

接続する

この章では、お手持ちのオーディオ機器と本機の接続のしかたを説明します。

接続する前に必ずお読みください。

箱から出したら

次の付属品がそろっているかを確認してください。

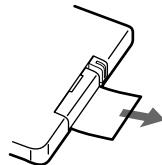
- i.LINK接続ケーブル (4ピン↔4ピン) (1)
- Digital Link Manager CD-ROM (1)
- AMループアンテナ (1)
- リモコン (1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
- Digital Link Manager取扱説明書 (1)
- 保証書 (1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンを使う前に

カードリモコンには、出荷時にリチウムボタン乾電池(CR2025)1個が内蔵されています。

お使いになる前に、下図のようにして絶縁シートをリモコンから引き抜いてください。



液もれを防ぐために

長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出してください。

⌚ 乾電池の寿命は約6か月です。

残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください(29ページ)。

ご注意

- 子供の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。
- 接触不良を防ぐため、使用する前に電池ケースの中と電池を乾いた布でよく拭いてください。
- 十とーの向きを正しく入れてください。
- 金属製のピンセットなどで電池をつかまないでください。ショートするおそれがあります。
- 充電しないでください。
- 液漏れしたときは、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 電池を長い間入れたままにしておくと、電池の一部に白い粉がつくことがあります。乾いた布などで拭き取ってからお使いください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部[R]に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコン操作ができない場合があります。

警告

乾電池の使い方を誤ると、破裂のおそれがあります。

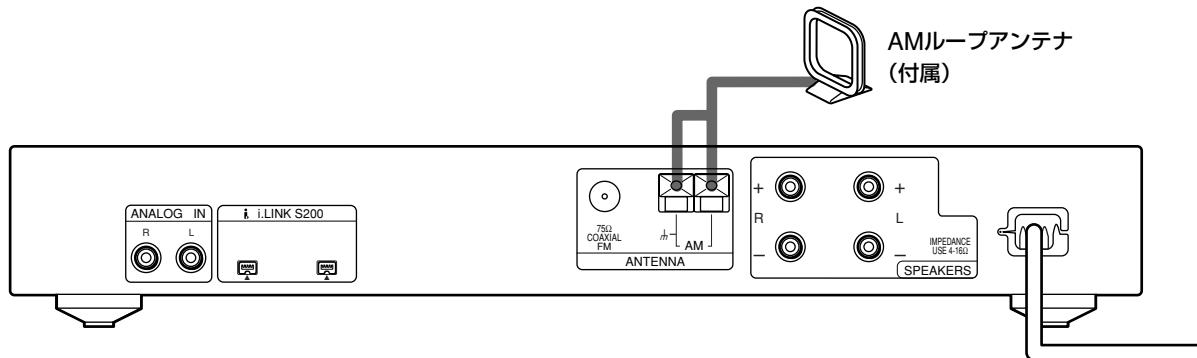
分解や加熱をしないでください。また、捨てるときは燃えないゴミとして処理してください。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。

アンテナを接続する

接続する



アンテナをつなぐ端子

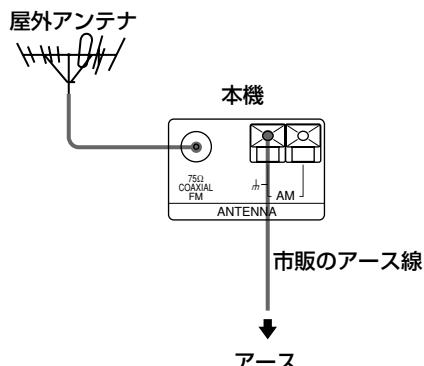
つなぐもの	つなぐ端子
AMループアンテナ	AM端子
FMアンテナ	75Ω COAXIAL FM端子

アンテナをつなぐときのご注意

雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他の機器の近くに置かないでください。

FMアンテナをつなぐときは

次のように、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。

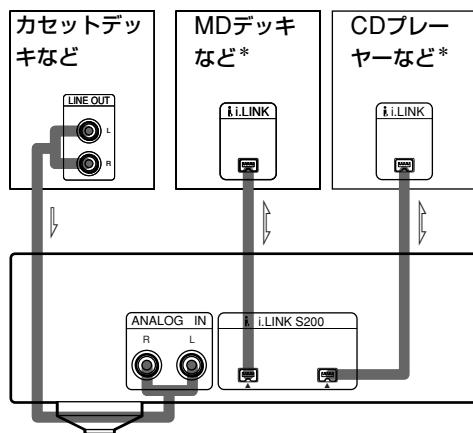


アース線をつなぐときは

市販のビニール電線をアース端子(△)につなぎ、もう一方の端を銅製の金属棒につないで地中に埋めます。または鋼管製の水道管につなぎます。ガス管につなぐのは危険です。絶対にやめましょう。

オーディオ機器を接続する

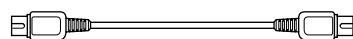
接続する



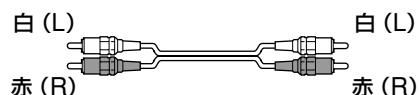
* 対応機器はどちらのi.LINK S200端子につないでもかまいません。

必要な接続コード

i.LINKケーブル (1本のみ付属)



オーディオ接続コード (別売り)



i.LINKを使って接続する

つなぐもの	つなぐ端子
MDデッキ、CDプレーヤーなど	i.LINK S200端子

i.LINKを使ってつなぐときのご注意

- i.LINK端子に金属が触れるショートし、接続した機器にトラブルが生じる場合があります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。

別売りのi.LINKケーブルについて

下記のソニー製i.LINKケーブル(別売り)をお使いください。

- VMC-IL4415 (1.5 m)
- VMC-IL4435 (3.5 m)

本機とi.LINK接続できる機器

本機と以下の機器をi.LINKケーブルでつなぐことができます。

- MDデッキ MDS-LSA1
- CDプレーヤー CDP-LSA1

i.LINK接続について

26ページの「i.LINKについて」をご覧ください。

ご注意

- 本機が対応している信号は、以下のとおりです。
伝送プロトコル A&Mトランスマッシュンプロトコル (IEC61883-6)
信号フォーマット 2チャンネルリニアPCM (IEC60958)
サンプリング周波数 (入力) 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
(出力) 44.1 kHz
i.LINK機器の中には、暗号化したオーディオ信号を扱う機器があります。それらの機器が出す暗号化された信号や、本機が対応していない信号(DVやMPEGなど)に関しては、本機は扱うことはできません。各機器が対応している信号の種類、暗号化について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機のi.LINK S200端子と他の機器のi.LINK S200またはS400端子を、i.LINK S100端子を備える機器をはさんで接続しないでください。
- 本機が、i.LINK S200またはS400端子を備える機器とLINCしているとき、他のi.LINK S100端子を備える機器からはこれらの機器に正しくLINCできません。このときは、i.LINK S200またはS400端子を備える機器に対して、まずi.LINK S100端子を備える機器からLINCした後で、本機からLINCしてください。LINC (Logical INterface Connection)について詳しくは、27ページをご覧ください。

他のオーディオ機器をつなぐ端子

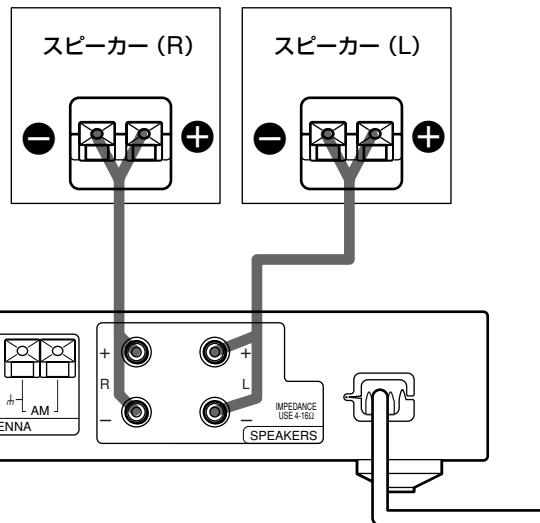
つなぐもの	つなぐ端子
カセットデッキなど	ANALOG IN端子

スピーカーを接続する

必要な接続コード

スピーカーコード（別売り）

各スピーカーに1本ずつ必要です。



接続する

スピーカーをつなぐ端子

つなぐもの

つなぐ端子

スピーカー

(4Ωまたはそれ以上)

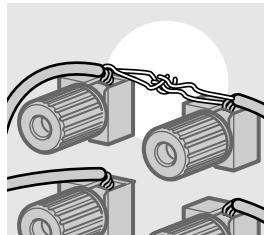
SPEAKERS端子

スピーカーをつなぐときの注意

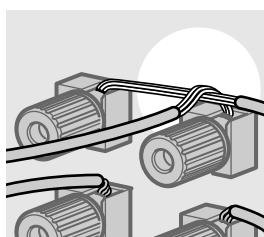
- スピーカーコードの両端の被覆を約10 mmはがし、芯線をねじっておいてください。スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて+は+どうし、-は-どうしでつなぎます。極性を間違えると、音が歪んだり低音不足に聞こえます。
- お手持ちのスピーカーの最大入力レベルが低い場合、過大入力にならないように本機の音量を調節してください。

それぞれのスピーカーコードの両端の被覆をはがし、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例



スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。



スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

スピーカーのショートを防止する

スピーカーをショートさせると本機にトラブルが生じます。ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のこととに十分注意してください。

基本操作

この章では本機の基本操作を説明します。

本機の電源を入れる前に

電源コードを接続する

電源コードをつなぐ前にスピーカーをつないでください(7ページ)。

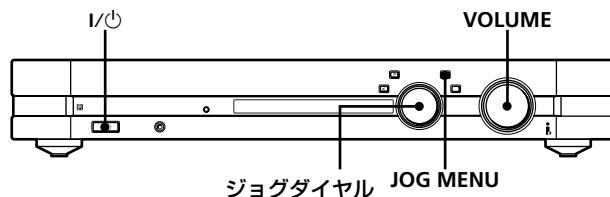
本機の電源コードを壁の電源コンセントにつなぎます。

VOLUMEつまみについてのご注意

スピーカーの破損を防ぐため、本機の電源を入れたらすぐにVOLUMEつまみを左に回してください。

使用したい機器（プログラムソース）を選ぶ

次のようにして、使用したい機器（プログラムソース）を選びます。すべての機器を接続し終えたら、次のように正しく接続できたか確認することをおすすめします。



- 1 I/Oスイッチを押して、電源を入れる。
- 2 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。
- 3 ジョグダイヤルを回して（またはリモコンのFUNCTION +／-ボタンを繰り返し押して）、希望する機器（プログラムソース、MDデッキやCDプレーヤーなど）を選ぶ。
- 4 選んだ機器の電源を入れ、再生する。
- 5 VOLUMEつまみを右に回して（またはリモコンのVOL +ボタンを繰り返し押して）、音量を調節する。

 現在選ばれている機器を確認するには

DISPLAYボタンを押します。選ばれた機器がCDP-LSA1またはMDS-LSA1のときは、選ばれている機器の表示窓に数秒間「▶▶◀◀」と表示されます。

この機能は、同じ種類の機器をいくつか接続しているときに便利です（例：CDP-LSA1を2台つないでいるとき）。詳しくは25ページをご覧ください。

 CDからMDに録音中、CDの音を確認することができます。

(CDP-LSA1とMDS-LSA1のみ)

録音中にプログラムソースをMDに切り替えます。ただし、高速録音中は音は出ません。

 本機とプログラムソースは自動的にLINCします。

接続した機器をプログラムソースとして選ぶと、本機は自動的にLINCします。本機の電源を切ったとき、またはLINKで接続されていない機器を選んだときはLINCは解除されます。詳しくは、27ページの「「LINCする」とは？」をご覧ください。

前ページの手順で正しく再生されない場合は、本ページのチェック項目で問題がないかどうかご確認ください。

どの音源を選んでも、音が出ない

- 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
- 音量が $-∞$ dBになっていないか確認する。
- スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。
- 本機のMUTINGランプが点灯している場合は、リモコンのMUTINGボタンを押して消す。

選んだ機器から音が出ない

- 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

 プログラムソースが選べない、または変えられない

→ 接続を変えたすぐあとにはプログラムソースは一時的に選べません（表示窓に「NEW CONNECT」と表示されます）。このときにプログラムソースを選ぼうとすると、「FUNC. Locked」と表示されます。

→ 本機がLINCされている間（例えば、本機のラジオからMDに録音するときに、MDデッキが本機をLINCしているとき）はプログラムソースは変えられません。このときにプログラムソースを変えようとすると、「FUNC. Locked」と表示されます。

他にもプログラムソースを選べない場合があります。そのときは、表示窓のメッセージと裏表紙の「メッセージ表示一覧」を確認してください。

片方のスピーカーから音が出ない

→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。
ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されています。正しく接続されているか確認してください。

両方のチャンネルが聞こえる場合は、スピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。

左右のスピーカーの音量のバランスが悪い

→ JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Sound Menu」を選ぶ。ジョグダイヤルを回して「SP. Balance」を選び、ENTERボタンを押す。ジョグダイヤルを回して、スピーカーのバランスを調節する。

詳しくは、「故障かな？と思ったら」（29ページ）をご覧ください。

 表示窓にメッセージが表示されたら

裏表紙をご覧ください。

各部の名称

この章では本機前面とリモコンの各部の名称と基本機能を説明します。

本体前面

① I/Oスイッチ

電源をオン／オフします。

スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れたらすぐにVOLUMEつまみを左に回してください。

STANDBYランプ

本機の電源がオフのときに点灯します。

② リモコン受光部

付属のリモコンを受光部Rに向けて操作します。

③ SLEEPランプ

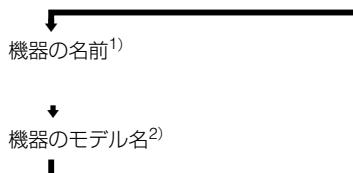
スリープタイマーがオンのときに点灯します（24ページ）。

④ H.A.T.S.ランプ

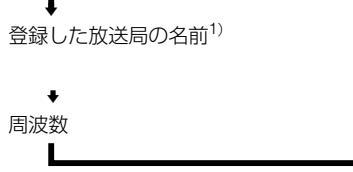
H.A.T.S. (High quality digital Audio Transmission System : ハイクオリティデジタルオーディオトランスミッションシステム) がオンのときに点灯します（25ページ）。

⑤ DISPLAYボタン

押すたびに表示窓の表示が次のように変わります。



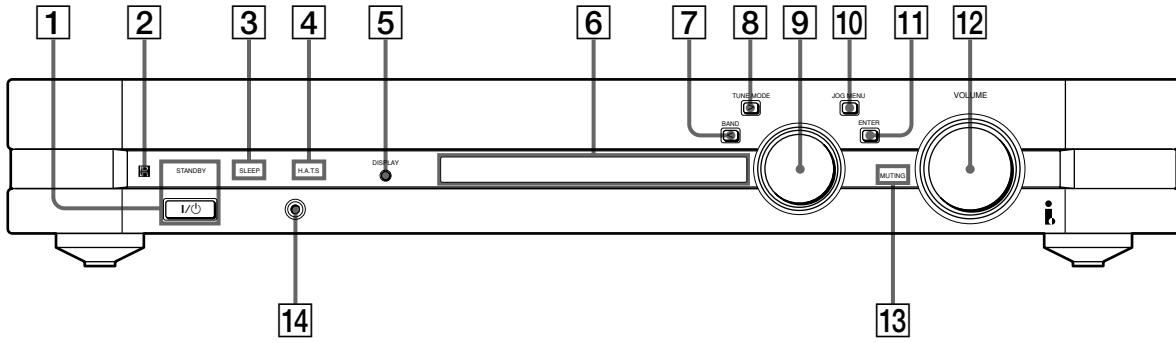
ラジオが選ばれているとき



¹⁾ 選択した機器や登録した放送局に名前が付けられているときのみ表示されます（22ページ）。

²⁾ モデル名が不明なときは、機器の種類（「CD」や「MD」など）が表示されます。機器の種類が不明のときは、「Unknown」と表示されます。

Ping機能がオンのときにDISPLAYボタンを押すと、現在選択されている機器の表示窓に数秒間「▶▶◀◀」と表示されます（25ページ）。



⑥ 表示窓

現在のプログラムソースや設定メニューなど、さまざまな情報を表示します。

⑦ BAND／<ボタン

FMまたはAMバンドを選ぶときに押します。本機の電源がオフのときに押すと、自動的に本機の電源が入り、最後に受信した放送局が受信されます。
また、登録した放送局やプログラムソースに名前を付けるときに、カーソルを左に移動します。

⑧ TUNE MODE／>ボタン

ラジオが選ばれているときに、放送局の受信のしかたを選ぶときに押します（18、19ページ）。表示窓に次のような文字が表示されます。

受信のしかた	表示窓に表示される文字
手動受信	MANUAL
自動受信	AUTO
登録した放送局を受信する	PRESET

また、登録した放送局やプログラムソースに名前を付けるときに、カーソルを右に移動します。

⑨ ジョグダイヤル

プログラムソースを選ぶとき、放送局を受信するとき、放送局を登録するとき、登録した放送局やプログラムソースに名前をつけるとき、または設定を変えるときに回します。

⑩ JOG MENUボタン

ジョグダイヤルで選ぶ内容を変えるときに繰り返し押します。ジョグダイヤルで選ぶ内容によって、表示窓に次のように表示されます。

選ぶ内容	表示窓に表示される文字
機器を選ぶ	機器の名前
音を調節する	Sound Menu (サウンドメニュー)
さまざまな設定をする	Setup Menu (セットアップメニュー)
放送局を受信する*	放送局名または周波数

*ラジオが選ばれているときのみ

機器の名前が表示されたら

ジョグダイヤルを回して、使いたい機器を選びます。

「Sound Menu」が表示されたら

ジョグダイヤルとENTERボタンを使って、音を調節します（14ページ）。

「Setup Menu」が表示されたら

ジョグダイヤルとENTERボタンを使って、放送局を登録したり（19ページ）、登録した放送局やプログラムソースに名前をつけたり（22ページ）、その他の設定をします（24ページ）。

放送局名または周波数が表示されたら

ジョグダイヤルを使って登録した放送局を選んだり（20ページ）、放送局を手動受信（18ページ）または自動受信（19ページ）します。

⑪ ENTERボタン

ジョグダイヤルで選んだ設定を確定するときに押します。

⑫ VOLUMEつまみ

機器を選んだあと、音量を調節するときに回します。

⑬ MUTINGランプ

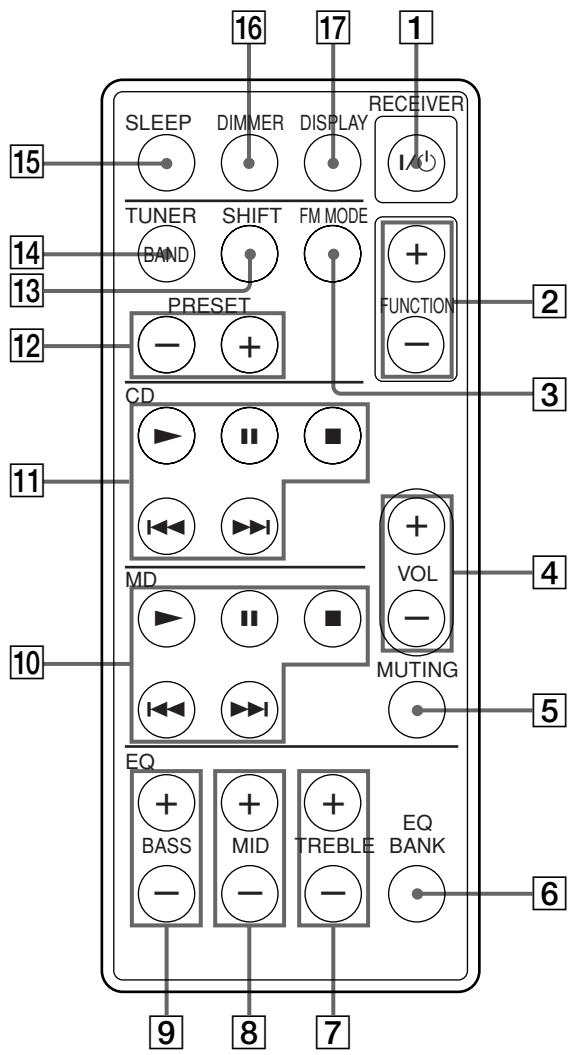
リモコンのMUTINGボタンを押したときに点灯します。

⑭ Ø端子

ヘッドホンをつなぎます。ヘッドホンをつないでいるときは、スピーカーからは音は出ません。

リモコン

各部の名称



1 |/| (電源) ボタン

本機の電源をオン、オフします。本機の電源がオフのときは、本体のSTANDBYランプが点灯します。

スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れたらすぐに VOLUMEつまみを左に回してください。

2 FUNCTION +/−ボタン

使いたい機器（プログラムソース）を選ぶときに繰り返し押します。

3 FM MODEボタン

表示窓に「STEREO」が点滅したり、FMステレオ放送の受信状態が良くないときに押します。表示窓に「MONO」が表示されます。モノラルになりますが、聞きやすくなります。

4 VOL +/−ボタン

音量を調節するときに繰り返し押します。

5 MUTINGボタン

音を瞬時に消すときに押します。ミューティング中は本体のMUTINGランプが点灯します。

6 EQ BANKボタン

登録したイコライザーの設定を選ぶときに繰り返し押します。

7 TREBLE +/−ボタン

登録したイコライザーの設定を選んだあとで、高域を調節するときに繰り返し押します。

8 MID +/−ボタン

登録したイコライザーの設定を選んだあとで、中域を調節するときに繰り返し押します。

9 BASS +/−ボタン

登録したイコライザーの設定を選んだあとで、低域を調節するときに繰り返し押します。

⑩ MDデッキ操作ボタン

ソニー製MDデッキを操作するときに使います。

MD ▶ボタン

MDの再生を始めます。

MD IIボタン

MDの再生を一時停止します。

MD ■ボタン

MDの再生を停止します。

MD ▲◀/▶▼ボタン

MDのトラックを選びます。

ご注意

このリモコンはSony MD1の信号を送信します。

⑪ CDプレーヤー操作ボタン

ソニー製CDプレーヤーを操作するときに使います。

CD ▶ボタン

CDの再生を始めます。

CD IIボタン

CDの再生を一時停止します。

CD ■ボタン

CDの再生を停止します。

CD ▲◀/▶▼ボタン

CDのトラックを選びます。

ご注意

このリモコンはSony CD1の信号を送信します。

⑫ PRESET +／-ボタン

登録した放送局を受信するときに押します。

⑬ SHIFTボタン

受信した放送局の登録場所（メモリーページ）を選びます（19、20ページ）。

⑭ BANDボタン

FMまたはAMバンドを選ぶときに押します。本機の電源がオフのときに押すと、自動的に本機の電源が入り、最後に受信した放送局が受信されます。

⑮ SLEEPボタン

スリープタイマーを使うときに押します。スリープタイマーがオンのときは、本体のSLEEPランプが点灯します（24ページ）。

⑯ DIMMERボタン

表示窓の明るさを変えるときに繰り返し押します（23ページ）。

⑰ DISPLAYボタン

表示窓に表示される情報を変えるときに押します。本体のDISPLAYボタンと同じ働きをします（10ページ[5]）。

音を調節する

この章ではイコライザーパラメーター やスピーカーのバランスなどを調節するための、サウンドメニューの使い方を説明します。

調節したイコライザーパラメーターは 本機に登録し、あとで呼び出すことができます。

音の調節はすべてサウンドメニューを使います。サウンドメニューには次のようなサブメニューがあります。

EQ BANKサブメニュー

このサブメニューを使って、登録した8つのイコライザーを呼び出することができます。EQ1～5には、3バンドイコライザーを5つまで登録できます。Parametric EQ1～3には、パラメトリックイコライザーを3つまで登録できます。EQ FLATには、イコライザーのかかっていないフラットな状態が設定されています。

EQ Controlサブメニュー

EQ BANKサブメニューを使ってEQ1～5に登録した3バンドイコライザーを選んだあとで、低域、中域、高域を調節できます。

このサブメニューは、3バンドイコライザー (EQ1～5) を選んだときのみ使えます。

EQ Conditionサブメニュー

EQ BANKサブメニューを使ってParametric EQ1～3を選んだあとで、それぞれの帯域のレベル、周波数、スロープを確認できます。

このサブメニューは、パラメトリックイコライザー (Parametric EQ1～3) を選んだときのみ使えます。

本機ではイコライザーの設定を確認することはできますが、設定を変更することはできません。i.LINK接続したパソコンなどの機器からのみ変更することができます。

EQ Memoryサブメニュー

3バンドイコライザーの低域、中域、高域を調節したあとで、変更した設定をEQ1～5に登録することができます。

SP. Balanceサブメニュー

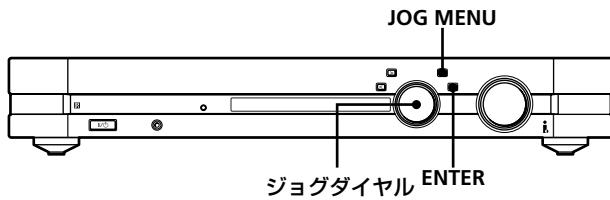
スピーカーのバランスを調節するときに使います。

3バンドイコライザーとは

低域、中域、高域をそれぞれ独立して調節できるイコライザーです。

パラメトリックイコライザーとは

3箇所まで中心周波数を選んでレベルを調節したり、スロープの種類を決めたりするイコライザーです。

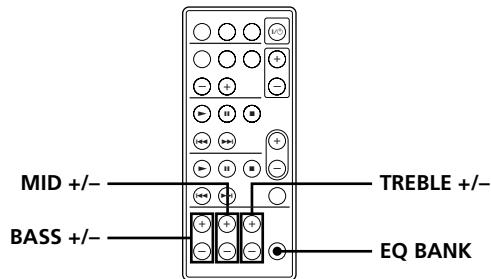


音を調節するときに使用するボタン（本体）

JOG MENUボタン：繰り返し押してサウンドメニューを選びます。

ジョグダイヤル：JOG MENUボタンを押したあとに、サブメニュー や登録したイコライザー、パラメーターを選ぶときに回します。

ENTERボタン：ジョグダイヤルで選んだ設定を確定するときに押します。



音を調節するときに使用するボタン（リモコン）

BASS +/−ボタン：選んだイコライザーの低域を調節するときに繰り返し押します。

MID +/−ボタン：選んだイコライザーの中域を調節するときに繰り返し押します。

TREBLE +/−ボタン：選んだイコライザーの高域を調節するときに繰り返し押します。

EQ BANKボタン：登録したイコライザーを選ぶときに繰り返し押します。

サウンドパラメーターを設定する

次のようにして、登録されたイコライザーを選び、パラメーターを調節して登録したり、スピーカーのバランスを調節することができます。

イコライザーを選ぶ

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Sound Menu」を選ぶ。

2 ENTERボタンを押す。

表示窓に「EQ BANK」と表示されます。

3 ENTERボタンを押し、ジョグダイヤルを回してイコライザーを選ぶ。

選んだイコライザーが自動的にはたらき、数秒後に表示窓が通常の表示に戻ります。

💡 リモコンを使ってイコライザーを選べます。
EQ BANKボタンを繰り返し押します。

イコライザーパラメーターを調節する（EQ1～5）

1 「イコライザーを選ぶ」の手順1から3を行い、調節したいイコライザーを選ぶ。

調節できるのはEQ1～5のイコライザーのみです。

Parametric EQ1～3とEQ FLATは、本機では調節できません。

2 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Sound Menu」を選ぶ。

3 ジョグダイヤルを回して、「EQ Control」を選ぶ。

Parametric EQ1～3またはEQ FLATを選んだときは、「EQ Control」は表示されません。

4 ENTERボタンを押し、ジョグダイヤルを回して調節したいパラメーターを選ぶ。

パラメーター	調節する設定
BASS	低域の設定
MID	中域の設定
TREBLE	高域の設定

サウンドパラメーターを設定する

- 5 ENTERボタンを押し、ジョグダイヤルを回してパラメーターを調節する。
各パラメーターは-10 dBから+10 dBの範囲内で1 dBごとに調節できます。

- 6 他のパラメーターも調節するときは、手順4、5を繰り返す。

💡 リモコンを使ってパラメーターを調節できます。
BASS +/-ボタン、MID +/-ボタン、TREBLE +/-ボタンを押します。

パラメトリックイコライザーの設定値（パラメーター）を確認する（Parametric EQ1～3）

音を
調節する

- 1 「イコライザを選ぶ」（15ページ）の手順1から3を行い、確認したいイコライザを選ぶ。
確認できるのはParametric EQ1～3のイコライザのみです。
- 2 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Sound Menu」を選ぶ。
- 3 ジョグダイヤルを回して、「EQ Condition」を選ぶ。
EQ1～5またはEQ FLATを選んだときは、「EQ Condition」は表示されません。
- 4 ENTERボタンを押し、ジョグダイヤルを回して確認したいパラメーターを選ぶ。
9つのパラメーターのうちの1つが表示されます*。ジョグダイヤルを回して、他のパラメーターを確認します。
数秒後に表示窓が通常の表示に戻ります。

* 「Gain」はレベル、「Freq」は中心周波数、「Slope」はスロープのパラメーターです。

調節したパラメーターを登録する

- 1 「イコライザパラメーターを調節する」（15ページ）の手順1から6を行い、パラメーターを調節する。
- 2 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Sound Menu」を選ぶ。
- 3 ジョグダイヤルを回して「EQ Memory」を選び、もう一度ENTERボタンを押す。
表示窓に「Memory to EQX?」と表示されます。「X」には、EQ BANKサブメニューで現在選んでいるイコライザの数字（1～5）が入ります。

- 4 現在選んでいるイコライザに新しいパラメーターを上書きするときは、ENTERボタンを押す。上書きしない場合は、ジョグダイヤルを回して調節したパラメーターを登録するイコライザを選び、ENTERボタンを押す。

表示窓に数秒間「Memory to EQX」と表示されます。「X」には、EQ BANKサブメニューで現在選んでいるイコライザの数字が入ります。

💡 イコライザの設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。
25ページをご覧ください。

スピーカーのバランスを調節する

- 1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Sound Menu」を選ぶ。
- 2 ジョグダイヤルを回して「SP. Balance」を選び、ENTERボタンを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して、スピーカーのバランスを調節する

FM／AM放送 を聞く

この章ではFM／AM放送の受信のしかたや放送局の登録のしかたを説明します。

次のような方法で本機でラジオを受信できます。

手動受信（マニュアルチューニング）

ジョグダイヤルを回して、希望する周波数の放送局を受信できます（18ページ）。

自動受信（オートマチックチューニング）

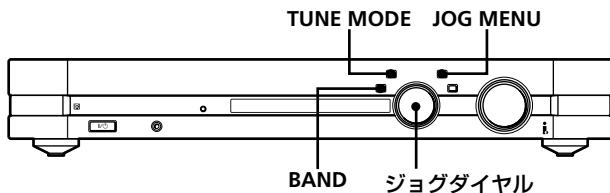
希望する放送局の周波数がわからないときは、本機が受信可能な放送局を探して自動的に受信します（19ページ）。

登録した放送局を選局する（プリセットチューニング）

手動受信や自動受信をした後、放送局を本機に登録することができます（19ページ）。登録後はジョグダイヤルを回して簡単に放送局を呼び出せます（20ページ）。FM局とAM局を合わせて30局まで登録できます。

ラジオを使う前に次のことを確認してください。

- FM／AMアンテナを本機に接続する（5ページ）。



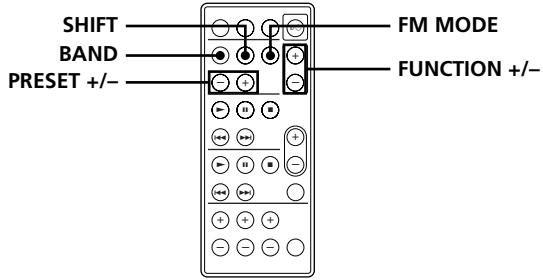
FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（本体）

TUNE MODEボタン：受信のしかたを選ぶときに押します。

JOG MENUボタン：ジョグダイヤルで選ぶ内容を変えるときに押します。

BANDボタン：FMまたはAMバンドを選ぶときに押します。

ジョグダイヤル：ラジオを選ぶとき、手動受信や自動受信をするとき、または登録した放送局を受信するときに使います。



FM／AM放送を聞くときに使用するボタン (リモコン)

PRESET +／-ボタン：登録した放送局を選ぶときに押します。

BANDボタン：FMまたはAMバンドを選ぶときに押します。

SHIFTボタン：放送局を登録するときや登録した放送局を選ぶときにメモリーページ(A、B、C)を選びます。

FUNCTION +／-ボタン：繰り返し押してラジオを選びます。

FM MODEボタン：表示窓に「STEREO」が点滅しているときやFMステレオ放送の受信状態が良くないときに押します。表示窓に「MONO」が表示され、モノラルになりますが、聞きやすくなります。

ご注意

FMステレオ放送の受信状態が良いとき(表示窓に「STEREO」が常に点灯しているとき)は、FM MODEボタンを押して「MONO」を消してください。

放送局を受信する(手動受信)

使用するボタンについて詳しくは、「FM／AM放送局を聞くときに使用するボタン(本体)」(17ページ)と「FM／AM放送局を聞くときに使用するボタン(リモコン)」(本ページ)をご覧ください。

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。

2 ジョグダイヤルを回して、「TUNER」を選ぶ。
最後に受信した放送局が受信されます。

3 BANDボタンを押して、FMまたはAMバンドを選ぶ。

4 TUNE MODEボタンを繰り返し押して、表示窓に「MANUAL」を点灯させる。

5 ジョグダイヤルを回す。
右に回すと周波数が高くなり、左へ回すと周波数が低くなります。

FMまたはAMバンドの最後まで周波数を探したら
同じ方向にもう1度選局していきます。

6 AM放送局を受信した場合は、AMループアンテナの向きを受信状態の良い方向に変える。

7 操作3～6を繰り返して、他の放送局を受信する。

✿ すぐにラジオを選べます

本体またはリモコンのBANDボタンを押します。または、リモコンのFUNCTION +／-ボタンを繰り返し押して、「TUNER」を選びます。

✿ 設定されている周波数ステップよりも細かい単位で選局することはできません。

本機の周波数ステップは以下の通りです。

FM : 100 kHz

AM : 9 kHz

放送局を受信する（自動受信）

使用するボタンについて詳しくは、「FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（本体）」（17ページ）と「FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（リモコン）」（18ページ）をご覧ください。

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。

2 ジョグダイヤルを回して、「TUNER」を選ぶ。
最後に受信した放送局が受信されます。

3 BANDボタンを押して、FMまたはAMバンドを選ぶ。

4 TUNE MODEボタンを繰り返し押して、表示窓に「AUTO」を点灯させる。

5 ジョグダイヤルを回す。

右に回すと低い周波数から高い周波数へ選局します。左に回すと高い周波数から低い周波数へ選局します。放送局を受信すると自動的に止まります。

FMまたはAMバンドの最後まで周波数を探したら
同じ方向にもう1度選局していきます。

6 引き続き選局するには、もう1度ジョグダイヤルを回す。

 **すぐにラジオを選べます**

本体またはリモコンのBANDボタンを押します。またはリモコンのFUNCTION +／-ボタンを繰り返し押して、「TUNER」を選びます。

放送局を登録する

使用するボタンについて詳しくは、「FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（本体）」（17ページ）と「FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（リモコン）」（18ページ）をご覧ください。

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。

2 ジョグダイヤルを回して、「TUNER」を選ぶ。
最後に受信した放送局が受信されます。

3 手動受信（18ページ）または自動受信（本ページ）をして、登録したい放送局を受信する。

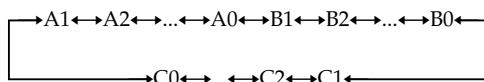
4 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。

5 ジョグダイヤルを回して「Preset Memory」を選び、ENTERボタンを押す。

表示窓に数秒間「MEMORY」と表示されます。
「MEMORY」が消える前に、操作6と7を行ってください。

6 ジョグダイヤルを回してメモリーページとプリセット番号を選ぶ。

メモリーページが表示され、プリセット番号が点滅します。ジョグダイヤルを回すたびに、次のようにプリセット番号の表示が変わります。



メモリーページをすぐに切り換えるには
リモコンのSHIFTボタンを繰り返し押します。

メモリーページやプリセット番号を選ぶ前に
「MEMORY」が消えたり、プリセット番号の点滅が止
まった場合は、操作4から繰り返してください。

7 ENTERボタンを押して、放送局を登録する。

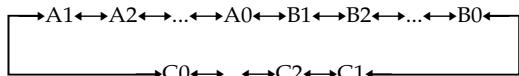
8 操作3～7を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を他の放送局に変更するには
上記の操作1～7を行ってください。

登録した放送局を選局する

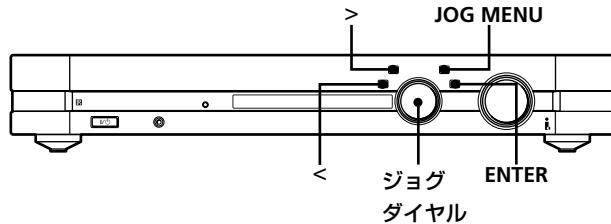
使用するボタンについて詳しくは、「FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（本体）」（17ページ）と「FM／AM放送を聞くときに使用するボタン（リモコン）」（18ページ）をご覧ください。

- 1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。
- 2 ジョグダイヤルを回して、「TUNER」を選ぶ。
最後に受信した放送局が受信されます。
- 3 TUNE MODEボタンを繰り返し押して、表示窓に「PRESET」を点灯させる。
- 4 ジョグダイヤルを回して（またはリモコンのPRESET +／-ボタンを繰り返し押して）、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。
ジョグダイヤルを回すこと（またはリモコンのPRESET +／-ボタンを繰り返し押すこと）に、次のように登録した放送局を探していきます。



メモリーページをすぐに切り換えるには
リモコンのSHIFTボタンを繰り返し押します。

その他の操作



この章で使用するボタン（本体）

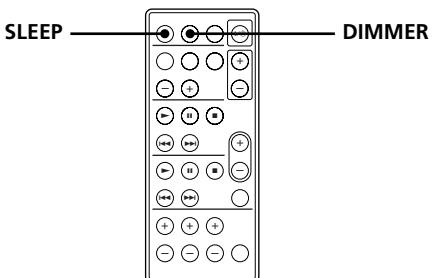
<ボタン：登録した放送局やプログラムソースに名前を付けるときに、カーソルを左に移動します。

>ボタン：登録した放送局やプログラムソースに名前を付けるときに、カーソルを右に移動します。

JOG MENUボタン：メニューを選ぶときに押します。

ジョグダイヤル：文字やメニュー項目を選ぶときに回します。

ENTERボタン：登録した放送局やプログラムソースに名前を付け終ったときや、メニュー項目を確定するときに押します。



その他の操作

この章で使用するボタン（リモコン）

DIMMERボタン：表示の明るさを選ぶときに押します。

SLEEPボタン：スリープタイマーを使うときに押します。

登録した放送局やプログラムソースに名前を付ける

登録した放送局に8文字まで、プログラムソース（i.LINK対応機器10台まで）に11文字まで名前を付けることができます。これらの名前は、放送局やプログラムソースが選ばれたときに本機の表示窓に表示されます（「LISSA CD」など）。ただし、それぞれの登録した放送局やプログラムソースには1つしか名前を付けることができません。この機能は同じ種類の機器を区別するのに役立ちます。例えば、CDプレーヤーが2台ある場合に「CD 1」、「CD 2」と区別できます。

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。

2 登録した放送局に名前を付ける場合

ジョグダイヤルを回して、「TUNER」を選び。
最後に受信した放送局が受信されます。

プログラムソースに名前を付ける場合

ジョグダイヤルを回して名前を付けたいプログラムソース（機器）を選び、操作4に進む。

3 登録した放送局を受信する。

詳しくは「登録した放送局を選局する」（20ページ）をご覧ください。

4 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。

5 ジョグダイヤルを回して、「Name Input」を選び、ENTERボタンを押す。

6 ジョグダイヤル、<ボタン、>ボタンを使って名前を付ける。

ジョグダイヤルを回して文字を選び、>ボタンを押してカーソルを次へ動かします。

文字の種類を選ぶには

入力したい文字の種類が表示されるまでDISPLAYボタンを繰り返し押します。

スペースを入れるには

表示窓にスペースが表示されるまでジョグダイヤルを回します（「」と「A」の間にあります）。

間違えて入力してしまったら

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し<ボタンまたは>ボタンを押し、ジョグダイヤルで正しい文字を選びます。

11台目のi.LINK対応機器に名前を付けようとしたら「List Full」と表示されます。選んだ機器に名前を付けたいときは、不要な機器の名前を削除します。

7 ENTERボタンを押す。

「MEMORY」が約1秒間表示され、名前が登録されます。

別の放送局に名前を付けるには

操作2～7を繰り返します。

ご注意

- ANALOG IN端子に接続した機器には名前は付けられません。操作5で「Not In Use」と表示されます。
- 現在選んでいる放送局または機器のみに名前が付けられます。また、登録されていない放送局には名前は付けられません。

名前を消すには

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して「Name Erase」を選び、ENTERボタンを押す。

3 ジョグダイヤルを回して、消したい名前を選び。

4 ENTERボタンを押す

操作3で選んだ名前が消えます。

ご注意

この操作で消すことができるのは、i.LINK対応機器の名前のみです。

録音する

i.LINK対応機器間で録音するときは、再生する機器と録音する機器の取扱説明書もご覧ください。

ここでは、ANALOG IN端子に接続した機器または本機のラジオから、i.LINK対応のMDデッキへの録音のしかたを説明します。MDデッキの取扱説明書もご覧ください。

- 1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、機器の名前が表示される状態にする。
- 2 ジョグダイヤルを回して、再生する機器(ANALOG INまたはTUNER)を選ぶ。
- 3 再生する機器の準備をする。
- 4 MDデッキに録音用のMDを入れ、必要であれば録音レベルを調節する。
- 5 MDデッキで録音を始め、再生機側で再生する。

ご注意

ANALOG IN端子に接続した機器または本機のラジオからMDデッキに録音している間は、プログラムソースを切り換えられません。

表示の明るさを調節する

表示の明るさを4段階で変えることができます。表示窓を暗くしている間は、JOG MENUボタンのランプは消灯させることができます。

電源が入っているときに、DIMMERボタンを押す。
ボタンを押すごとに、表示の明るさは次のように変わります。

表示窓は通常の明るさで表示され、JOG MENUボタンが点灯する。

↓
表示窓は少し暗くなり、JOG MENUボタンが点灯する。

↓
表示窓は少し暗くなり、JOG MENUボタンが消灯する。

↓
表示窓は消灯し、JOG MENUボタンも消灯する。

※ 表示窓が消灯しているときに、表示されている情報が変更されると

表示窓は少し明るくなり新しい情報が数秒間表示されたあと、再び消灯します。

※ i.LINKコントロール機能が働いているときに、本機の表示の明るさを調節すると

MDデッキMDS-LSA1とCDプレーヤー CDP-LSA1の表示の明るさは、本機と同じになります。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本機の電源を自動的に切ることができます。

電源が入っているときに、リモコンのSLEEPボタンを押す。

表示窓に「SLEEP」が表示されます。

SLEEPボタンを押すごとに、時間表示が次のように切り換わります。

→ 2:00 → 1:30 → 1:00 → 0:30 → 0:20 → 0:10 → Off

時間を指定した後、SLEEPボタンを押す前の表示に戻ります。

本機の電源が切れる前に残り時間を確認するには
SLEEPボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

スリープタイマーをやめるには

残り時間が表示されているときにSLEEPボタンを押します。表示窓に「Off」が表示され、スリープタイマーは解除されます。

 i.LINKコントロール機能を使っているときは（本ページ）
本機の電源が切れたときに、本機と連動するi.LINK対応機器の電源も自動的に切れます。

セットアップメニューを使ったその他の設定

i.LINKコントロール機能を使って、本機での操作と特定の機器の操作を連動させることができます。

本機とi.LINK対応機器の操作を連動させる (i.LINKコントロール機能)

i.LINKコントロール機能が働いていると、次の操作を連動させることができます。

- リモコンのCD ▶ボタンまたはMD ▶ボタンを押すと、本機と対応する機器の電源が入り、再生を始めます。
- CDプレーヤーまたはMDデッキの▶ボタンを押したり、本機のリモコンのCD ▶ボタンまたはMD ▶ボタンを押して再生を始めると、対応する機器が自動的にプログラムソースとして選ばれます。
- 本機の表示の明るさを変えると、MDデッキMDS-LSA1またはCDプレーヤーCDP-LSA1の表示も同じ明るさに変わります。
- スリープタイマーを使って本機の電源が切れると、本機と連動するi.LINK対応機器の電源も切れます。
- 本機の電源を入／切すると、本機と連動するi.LINK対応機器の電源も入／切します。
- i.LINK対応のMDデッキまたはCDプレーヤーがプログラムソースとして選ばれていて、1分以上本機で何も操作されなかったときは、選んだi.LINK対応機器の電源を切ると本機の電源も自動的に切れます。ただし、スリープタイマーを使っているときは、指定した時間が経つまで本機の電源は切れません。

1 JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して「i.LINK Ctrl」を選び、ENTERボタンを押す。

3 ジョグダイヤルを回して「On」を選び、ENTERボタンを押す。

i.LINKコントロール機能をやめるには
操作1～3を繰り返し、操作3で「Off」を選びます。

ご注意

- 接続した機器と条件によっては、上記のようなi.LINKコントロール機能がはたらかない場合があります。
- i.LINKで接続されている機器の中で、i.LINKコントロール機能が働いている機器は1台のみにしてください。
STR-LSA1を2台つないでいるときなどは、片方のレシーバーのみでi.LINKコントロール機能を働かせてください（もう片方のレシーバーのi.LINKコントロール機能は「Off」（無効）にしてください）。

現在選んでいる機器を確認する (Ping機能)

Ping機能が働いていると、本機のDISPLAYボタンを押したときに、現在どの機器を選んでいるかを確認することができます。選ばれている機器の表示窓に、一時的に表示が出ます。表示は機器により異なります。例えば、選ばれている機器がCDP-LSA1またはMDS-LSA1の場合は、それぞれの機器の表示窓に「▶▶◀◀」と表示されます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

- 1** JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。
- 2** ジョグダイヤルを回して「Ping」を選び、ENTERボタンを押す。
- 3** ジョグダイヤルを回して「On」を選び、ENTERボタンを押す。

Ping機能をやめるには

操作1～3を繰り返し、操作3で「Off」を選びます。

高音質で聞く (H.A.T.S.機能)

H.A.T.S. (High quality digital Audio Transmission System) 機能が働いていると、入力されたデジタルオーディオ信号を一時的にバッファに蓄え、精度の高いタイミングでバッファから信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター(信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ)の影響を受けず、音質が良くなります。

- 1** JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。
- 2** ジョグダイヤルを回して「H.A.T.S.」を選び、ENTERボタンを押す。
- 3** ジョグダイヤルを回して「On」を選び、ENTERボタンを押す。

H.A.T.S.機能をやめるには

操作1～3を繰り返し、操作3で「Off」を選びます。

ご注意

- H.A.T.S.機能の性質により、再生機の操作(例：再生ボタンを押す、停止ボタンを押す、一時停止ボタンを押す、など)をしてから音が変わるものまで少しタイムラグがあります。
- H.A.T.S.機能は、H.A.T.S.機能に対応する機器にのみ働きます。
- 本機では、サンプリング周波数44.1 kHzのデジタルオーディオ信号にのみH.A.T.S.機能が働きます。
- H.A.T.S.機能は、本機が選んでいるプログラムソースが他の機器(例：他のレシーバーやMDデッキ)からも選ばれているときには働きません。これは、プログラムソースからのデジタルオーディオ信号の転送速度を本機が調節するのに対して、iLINKの経路内では、適切な信号転送のため、ある機器からのオーディオ信号を受ける機器は1つだけ、と決まっているからです。
- 以下の場合、H.A.T.S.機能は働きません。
 - CDプレーヤーからMDデッキに録音しているときに、MDデッキまたはCDプレーヤーをプログラムソースとして選んだとき。
 - デジタルオーディオ信号のサンプリング周波数が44.1 kHzではないとき。

本機のメモリーを消去する

本機で調節したすべての設定項目が本機のメモリーから消去され、工場出荷時の状態になります。

- 1** JOG MENUボタンを繰り返し押して、「Setup Menu」を選ぶ。
- 2** ジョグダイヤルを回して「All Clear」を選び、ENTERボタンを押す。
- 3** ジョグダイヤルを回して「Yes」を選び、ENTERボタンを押す。
表示窓に「Make Sure?」と表示されます。
- 4** ジョグダイヤルを回して「Yes」を選び、ENTERボタンを押す。

i.LINKについて

ここではi.LINKの規格や特長について説明します。i.LINKを使って操作を始める前にお読みください。

なお、i.LINKを使った接続や操作は、機器によって異なることがあります。本機とi.LINK対応機器との接続について詳しくは、「接続する」(4ページ)をご覧ください。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。

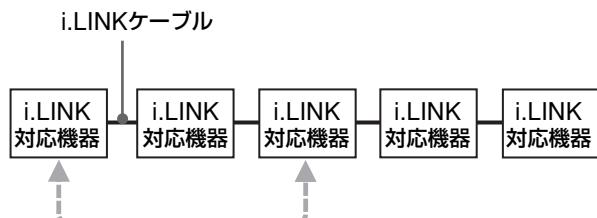
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業から賛同いただいている商標です。IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKでの接続について

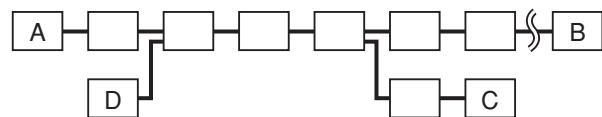
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながっていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

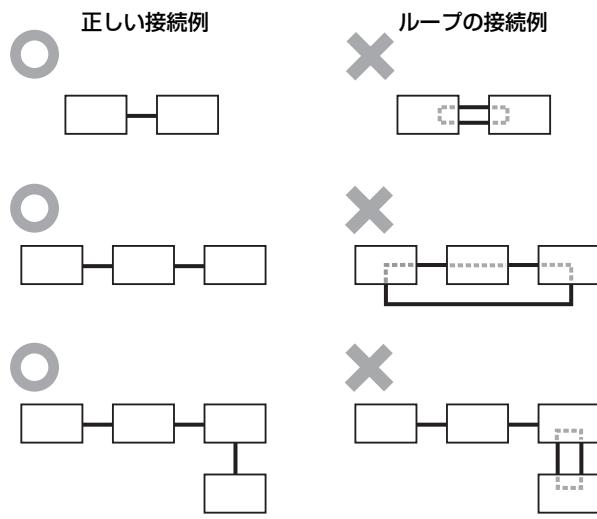
- i.LINK端子を3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。
(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)
ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。



A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器を接続できます（最大16ホップ）。

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。



接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られるとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400 Mbps*が定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？

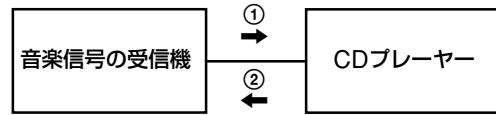
「Mega bits per second」の略で、「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。200 Mbpsならば、1秒間に200メガビットのデータを送ることができます。

リンク 「LINCする」とは？

i.LINK対応機器間をi.LINKケーブルで接続しただけでは、音楽信号の送受信をすることはできません。音楽信号を送信する機器と受信する機器をLINCする必要があります。「LINCする」とは、送受信を行う機器間に「音楽信号の論理的な経路を確立する」ことを意味します。この論理経路には識別番号があり、送信側はこの経路に音楽信号を出し、受信側はこの経路の音楽信号を入力します。送受信を行う機器は、この経路を互いに知っている必要があります。LINCするとき、i.LINK対応機器間で、以下のようなやりとりが行われます。

例) 音楽信号を受信する機器からCDプレーヤーをLINCするとき

- ① CDプレーヤーに対して、「これから、音楽信号の論理的な経路を確立してください」と、音楽信号の経路の識別情報を送る。



- ② 「了解です」とCDプレーヤーが信号を送る。

以上のようなやりとりが行われ、LINCが完了して初めて、i.LINK対応機器間で音楽信号を送受信することができるようになります。

その他

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。

(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



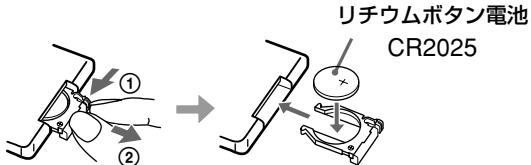
本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

乾電池の交換のしかた

乾電池ケースをリモコンから引き出し、ボタン電池をはずします。次に、新しい電池の+の刻印のある面を上にしてケースに入れ、ケースをリモコンにはめ込みます。



- ① 押し続ける。
- ② 引く。

警告

乾電池を正しく交換しないと、液もれや破裂のおそれがあります。メーカー推奨の、同じまたは同等の型の電池を使用してください。また、捨てるときにはメーカーの指示に従ってください。

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。また、9ページのチェック項目をご覧になり、もう1度接続を確認してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーご相談窓口またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。

音が出ない、ほとんど聞こえない

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 正しい機器が選ばれているか確認する。
- MUTINGランプが点灯しているときは、リモコンのMUTINGボタンを押す。
- データ転送速度200 Mbpsに対応するi.LINKケーブルを使う。
- 保護回路が働いている。本機をオフにし、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源をオンにする。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- サウンドメニューを使ってスピーカーのバランスを調節する(16ページ)。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。
- テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

録音ができない

- 各機器が正しく接続されているか確認する。

放送局が受信できない

- アンテナが正しく接続されているか確認する。アンテナの向きなどを調節する。屋外アンテナを使用する。
- 自動受信をしている場合、受信状態が悪い。手動受信する。
- 登録した放送局を受信する場合、何も登録されていない、または登録した放送局を消してしまった。登録する(19ページ)。

故障かな？と思ったら

リモコンで操作できない

- 本体のリモコン受光部Rに向けて操作する。
- リモコンと本体の間に障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池を交換する。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
登録した機器名	22ページ
全てのメモリー	25ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されています。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- ・型名：STR-LSA1
- ・故障の状態：できるだけ詳しく
- ・購入年月日：
- ・お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部	FMチューナー部	i.LINK部
実用最大出力 50 W + 50 W (4 Ω、JEITA)	受信周波数 76.0~90.0 MHz	伝送プロトコル A&Mトランスマッショント プロトコル (IEC61883-6)
周波数特性 7 Hz~20 kHz ±0.3 dB	アンテナ 75Ω、不平衡型	信号フォーマット 2チャンネルリニアPCM (IEC60958)
トーンコントロール 低域：100 Hz ±10 dB 中域：1 kHz ±10 dB 高域：10 kHz ±10 dB	感度 モノ： 新IHF : 18.3 dBf IHF : 2.2 μV/75Ω ステレオ： 新IHF : 38.3 dBf IHF : 22.5 μV/75Ω	サンプリング周波数 (入力) 32 kHz、 44.1 kHz、48 kHz (出力) 44.1 kHz
アナログ入力 入力感度：250 mV 入力インピーダンス： 50 kΩ	実用感度 新IHF : 11.2 dBf IHF : 1 μV/75Ω	電源、その他
ヘッドホン出力 低／高インピーダンス ヘッドホン対応	高調波ひずみ率 モノ : 0.3% (1 kHz) ステレオ : 0.5% (1 kHz)	電源 AC100 V、 50/60 Hz
	実効選択性度 55 dB (400 kHz)	消費電力 100 W
	ステレオ分離度 35 dB(1 kHz)	最大外形寸法 430 x 70 x 335 mm (幅／高さ／奥行き、 最大突起部含む)
	中間周波数 10.7 MHz	質量 約6.3 kg
AMチューナー部		付属品 「4ページをご覧ください」
	受信周波数 531 kHz~1,602 kHz	本機は「高調波ガイドライン適合品」で す。
	アンテナ ループアンテナ	仕様および外観は、改良のため、予告なく 変更することがあります。ご了承ください。
	高調波ひずみ率 0.5%(50 mV/m、 400 kHz)	
	中間周波数 450 kHz	

その他

メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は下の表の通りです。

メッセージ	エラーコード	原因と対処のしかた
CANNOT LINC	C78 : 11／C78 : 12	他の機器が本機とLINCしているため、本機が別の機器とLINCすることができない。使用しない機器からのLINCを解除する。
NO SIGNAL	C78 : 04	選んだ機器からの出力がない。選んだ機器から音が出ているか確認する（例：選んだ機器の音を録音してみる）。
	C78 : 22	入力された信号のフォーマットに本機が対応していない。
	C78 : 31	本機と選んだ機器のデータ転送が不安定になっている。または、入力された信号のフォーマットに本機が対応していない。選んだ機器の状況と、信号のフォーマットを確認する。
BUS FULL	C78 : 15	i.LINKのバスが込み合っているため、本機から信号を出力できない。選んだ機器と本機のLINCを解除する。
LOOP CONNECT	C78 : 03	i.LINK接続がループしている。接続を確認する（27ページ）。
NEW CONNECT	—	i.LINKの経路に新しい機器が追加された、または経路からある機器がはずされた。表示が消えるまで数秒間待つ。
FUNC. Locked	—	本機とある機器がLINCされているため、他の機器を選ぶことができない。使用しない機器のLINCを解除する。
Select FUNC.	—	他の機器を選ぶ。
Input Occupied	—	本機と使用しない機器のLINCを解除する。
Off Processing	—	i.LINKコントロール機能を働かせているときは、本機の電源を切ると本機と連動するi.LINK対応機器の電源も自動的に切れるが、i.LINK対応機器の電源が切れるまでには少し時間がかかる場合がある。この間、このメッセージが点滅し、本機ではどの操作も受け付けない。表示が消えるまで数秒間待つ。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

● ナビダイヤル  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は 03-5448-3311

● Fax 0466-31-2595

受付時間：

月～金

9:00～20:00

土・日・祝日

9:00～17:00

この説明書は再生紙を使用しています。